



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.3.12 No. 4356

休日勤務類の列車運行(職)

この現実は何だ、 増員しろ!!!

「休勤」だけが頼りの要員状態!

千葉運転区では、昨年の夏季輸送から年初にかけて、休日勤務に頼らなければ業務が回らないという、運転士の欠員状況がずっと続いてきた。年休は一人とか二人しか入らず、七人も八人も休日呼び出しをかけて、ようやく業務が回るといふ事態が連日のように続いたのである。職場では、要員不足に対する怒りが心頭に達している。原因はいくつかある。根本的な原因は、「標準数」という考え方に基づく絶対的な要員不足だ。標準数の計算のなかには、医適や運適、訓練、研修などに必要な要員数は一切含まれていない。それどころか、千葉転では、本来の業務をそっちのけで、特定の人間を、「小集団」だと言っては日勤に降ろし、「業研」だと称しては日勤に降ろし、「区報作成」と言っている日勤に降ろすというような要員運用が行なわれている。この間も年休も取れずに夏季輸送をのり切ったと思えば、その間でできなかった訓練センターで研修が集中的に

入り、月末になれば、三人もが「業研」と称して日勤に降りるなどということが続いている。

現場の声を聞け

▽ 病院まで電話

● この間の当直の主な仕事は、休勤を呼び出すための電話を片っ端からかけまくることになっていく。A助役など、乗務中の人間の家に呼び出しの電話をしてみたり家族が、「病院に行っている」と言ったら病院にまで電話をかけている。

▽ 「公休・アケ」?

● あまりにも休勤が多いので、所定の勤務表と実際の勤務表とが

二重帳簿のようになっていて、実際の勤務表は隠してあって絶対明らかにならない。勤務表に「公休・アケ」などという指定があったので、「これは何なんだ」と聞いたら、その時は「単なるミスです」と言っていたが、後で聞いたら、それはウソで、休勤で出る約束ができていた所をそのように表示しているということだった。

▽ 承諾も無しに

● 業務が回らないときは、JR東労組の若い者など、本人に承諾を得ない前から休勤を指定してしまい、後で承諾を得ている状態だ。

▽ 自分で探せ!

● 年休がほとんど入らないことに文句を言うと、当直助役が、「どうしても年休を入れたかったら代わりに休勤で出る人を見つけてきてくれ」などと言うことを平気で言う状態だ。

▽ 双眼鏡で監視

● 職場がこんな状態にもかかわらず、やっていることは、くだらない労務政策だけだ。幕張電車の首席助役になつた行方などは、千葉転の便乗行路を所定列車に乗っているかどうか、毎日双眼鏡で監視し、夜中は夜中で私服で監視している。行方助役は、赴任のときに「自分に厳しく、他人に厳しく、妥協を許さない」などと挨拶して失笑をかったそうだが、検修のことなど何ひとつ知らない人間が幕張電車の首席になつたのだから、「自分に厳しく」というのなら、まずやるべきことは、謙虚に検修業務のことを覚えることではないか。開いた口が塞がらない。この会社は、完全に天地がひっくり返っている。

▽ 徐行の掲示なし

● そんなことをやっているから本来の仕事は全くデータラメになっている。この前も、三五皿の徐行の掲示すらできていなかった。しかも、乗務から帰ってきて、当直に文句を言ったら、「あれは指導助役の責任で当直の責任ではない」などと、信じられないような責任の転嫁をしている。

▽ 業務が回らないために

● 業務が回らないために、臨時行路も、休職休業を二つに割って、それに団臨の仕事をくっつけて、本来なら三つの仕事になるべきものを二仕事にしてしまうような臨仕業のつくり方が行なわれている。

▽ 双眼鏡で監視

● 職場がこんな状態にもかかわらず、やっていることは、くだらない労務政策だけだ。幕張電車の首席助役になつた行方などは、千葉転の便乗行路を所定列車に乗っているかどうか、毎日双眼鏡で監視し、夜中は夜中で私服で監視している。行方助役は、赴任のときに「自分に厳しく、他人に厳しく、妥協を許さない」などと挨拶して失笑をかったそうだが、検修のことなど何ひとつ知らない人間が幕張電車の首席になつたのだから、「自分に厳しく」というのなら、まずやるべきことは、謙虚に検修業務のことを覚えることではないか。開いた口が塞がらない。この会社は、完全に天地がひっくり返っている。